

船堀第二小学校応援団実践報告書

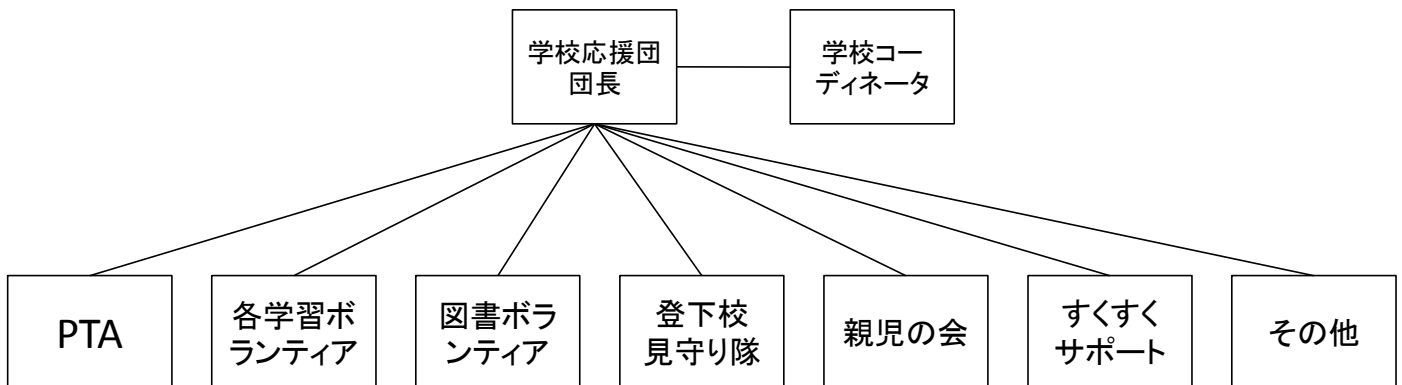
1 校長及びコーディネーター氏名

船堀第二小学校長 川又 弘
コーディネーター 生井 敏昭

2 今年度の活動内容

応援団の種類	応援団の名称	活動内容
学習支援	学習ボランティア ゲストティーチャー	<ul style="list-style-type: none">● 3年小松菜授業の授業支援● 1年環境学習の授業支援● 2年けん玉教室のゲストティーチャー● 4年海苔すき体験のゲストティーチャー● 5年和風作り教室のゲストティーチャー● 手芸クラブの活動支援● 日本文化クラブの活動支援
読書活動支援	図書ボランティア	<ul style="list-style-type: none">● 図書室の整備や本の整理● 読み聞かせ活動の実施
安全支援	登下校見守り隊	<ul style="list-style-type: none">● 登下校の際の児童の安全確保
体験活動支援	親児の会	<ul style="list-style-type: none">● 花火大会の実施● サマーキャンプの実施● 餅つき大会の実施● 焼き芋大会の実施
行事等支援	PTA	<ul style="list-style-type: none">● 入学式・卒業式の来校者の誘導支援● 学芸会鑑賞者の入退場整理支援

3 学校応援団組織図



4 今年度の成果と今後の課題

<成果>

- ゲストティーチャーや学習ボランティアが、各学年の様々な学習活動に対し、専門的な立場から支援してくれたので、児童にとって学習が臨場感のある体験活動の場や具体的な問題解決の場となった。
- 図書ボランティアが、図書室の整備や季節ごとの装飾、本の整理をしてくれたり、毎週、休み時間に読み聞かせをしてくれたりしたので、読書科の学習の推進に役だった。
- 町会の人たちが登下校見守り隊として、日々、横断歩道等に立ってくれたので、児童の安全が確保できた。
- P T Aの方々が学芸会や運動会等で誘導・整理にあたってくれたので、3000人近くの参観者が来る大規模校でも円滑な行事運営ができた。
- 親児の会がさまざまな体験活動を企画・運営してくれたので、児童の体験の場となるとともに、他と協力する姿勢等や地域への所属意識が高まった。

<課題>

- 学校と学校応援団の間の調整のための「コーディネートの進め方」の明確化。
- コーディネーターの支援や学校応援団との調整をするための「校内組織」の充実。
- 芝生管理など、学校のニーズに即した学校応援団の取り組みの再検討と一層の拡大。

5 コーディネーターより

この1年間で特に私が印象に残った学校応援団の活動は次の3つです。

1つは、学校の環境整備として、P T Aサポーターの方をお願いして学校の除草作業を先生方と一緒にやったことです。みんなで一緒にやることで短い時間で学校がとてもきれいになりました。

2つは、子供たちが楽しみにする行事です。P T Aとして大きなお祭り「スマイルフェスタ」をはじめ、「親児の会」主催のサマーキャンプ、花火大会など、「すくすくスクール」を中心としたゲームやイベントなど、楽しい行事がたくさんできました。

3つは、地域の安全安心に関する活動です。毎朝船堀6丁目町会見守り隊は交差点で子どもの安全を見ていただきました。また、学校・地域・保護者が一体となって安全安心パトロールを行いました。今後も、子供たちのために、地域と一緒に活動の盛り上げていきたいと思えます。

6 学校長より

海苔すき体験、和凧作り、小松菜の学習など、専門的な立場からの学習支援により、地域の伝統を学ぶ機会となった。また、図書ボランティアによる読み聞かせ、親児の会の様々な行事、安全見守り隊やP T Aの皆さまの献身的な支援により、本校は充実した教育活動を行うことができた。

こうした学校応援団の皆さまの姿を通して、子供たちは、「地域や伝統」、「周囲の人々に貢献する姿勢」「他者と協力する姿勢」なども学ぶことができた。

今後は、様々な立場から学校を応援してくださる皆さまの活動や思いを尊重しながら、学校応援団という組織を見直し、改善していくことがさらなる充実につながると思う。そのために、校内に設置している「学校応援団推進委員会」とコーディネーターの連携をさらに促進し子供たちの「学び」を創造していきたい。